

# 桑名文化協会

## 新春六華苑祭

### 新春茶会

茶華香道部門

森

宗重

(茶道松尾流)

平成24年3月15日  
第 31 号

桑名市文化協会  
桑名市中央町2丁目37  
TEL 24-1361  
<http://bunkyo-kuwana.jp>

昨年はこの国に強い「絆」が生まれました。そして支えあい、みんな一緒だから前を向いて、そんな新しい年が始まりました。今日、一月十五日新春六華苑祭におきまして、月釜茶会を松尾流が担当させて頂きました。寒気厳しい折から、もしやと、床には紅炉一點の雪の軸を掛けて、雪の朝という銘の茶杓など、雪をテーマの道具組みにて、沢山のお客様をお迎え致しました。六華苑祭と言う事で、

みんな和やかに楽しく一座をくむ、そして今日ここでの集いは一生涯お目にかかる事の出来ない出会い、その様な事を深く感じた今日のお茶会、大切な幸せな一日であった事を感謝致しております。

いろいろな分野の方々を始め、ご家族連れ等とても楽しいお席でございました。今日この日にみんな仲よく一緒に心が動く時、そこには笑いがあり、喜びあう事が出来るのもみんなと一緒にだからと改めて思う事でした。

茶道の中には、和敬静寂とか、一期一会という言葉があります。



## 新春六華苑祭に参加して

芸能部門 加藤 清子  
(ハーラウ ナニ ハエナ オカラウアエ)

いただきましたが、中はとても綺麗で赤いじゅうたんが敷きつめられ気持ちよく踊ることができました。

今回は初めてでしたが、とても良い経験をさせていただき、大変喜んでおります。また、もっとゆつくり六華苑を見学したいと思いました。

最後にこの催し物に関わられた方々に深く感謝いたしますとともに、桑名市文化協会の益々の発展を心よりお祈り申し上げます。



1月14日・15日の2日間にわたって第8回の六華苑祭が盛大に開催されました。天気は曇り空で少々風が冷たく寒い一日でした。

私達ハーラウ ナニ ハエナ オカラウアエは2日目にフラダンスを踊らせていただきました。館内を見学にいらした多くの方々

に足を止めていただきました。重要文化財に指定されている六華苑で踊らせていただけると聞いて、とても光栄に思い身のひきしまる思いでした。

フラダンスは、洋館で踊らせて



# 市民芸術文化祭を終えて

## 「演劇祭」を終えて

演劇部門

加藤 武夫

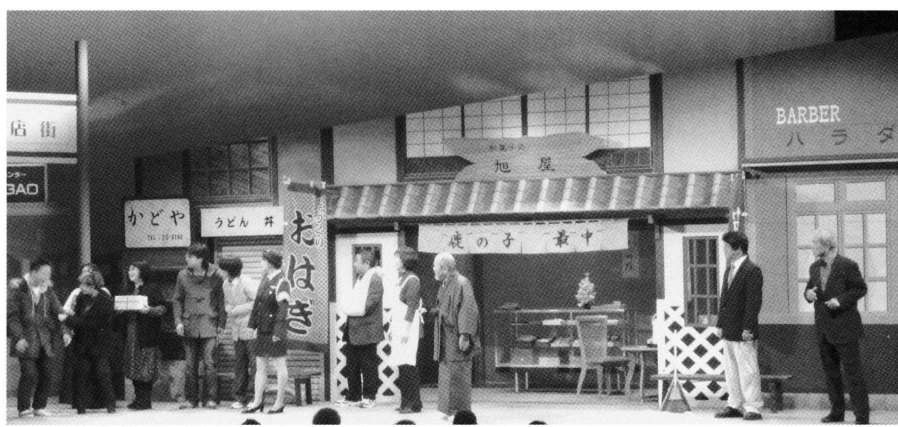
(劇団すがお)

私たち演劇部門は、今年の演劇祭は創立50周年を迎えた劇団すがおが担当しました。

各地の商店街でシャッター通りが増え続ける中、桑名で頑張っている商店街の皆さんの励ましになるような作品を上演したいという思いで、オリジナル作品「明日を信じて」一幕を制作、上演いたしました。客足が遠のく商店街、後継者のことで頭が痛い店主とその家族の葛藤と、それを取り巻く商店街の人々の明日を信じて手を取り合う姿を描きました。

私たちのメッセージは届いたという観客の声にほっとしています。観客数は約400名の方に見ていただきました。

劇団すがおは、昨年の12月で劇団創立50周年を迎えました。また、第三銀行から昨年は三銀ふるさと三重文化賞を受賞して50周年の節目にふさわしい受賞でした。今後とも桑名市文化協会の一員として頑張っていきたいと思っています。



「演劇祭」を終えて

なお、3月4日(日)には、桑名演劇協会の主催で、演劇集団Cブレンドと劇団すがおの合同の朗読劇「それ行け安全マン!？」も、桑名市コミュニティプラザで上演いたしました。

東北大震災から1年、復興・復旧支援企画として「原発」問題の朗読劇でした。

## 吟剣詩舞道の祭典

芸能II部門

尾崎 三千男

(桑名市吟剣詩舞道連盟)

十一月六日の日曜日に、市民会館大ホールで「吟剣詩舞道の祭典」を開催しました。

桑名市民芸術文化祭は第二十回目となります。初回に合わせて、詩吟・剣舞・詩舞の愛好者で桑名市吟剣詩舞道連盟が発足しました。そこで、二十周年を祝い、心に残る祭典にしようと企画しました。

来賓の方々をお招きしての記念式典をはじめ、トレーナーによる簡易伴奏ではなく、尺八と箏の先生による本伴奏をさせていただいて吟じました。本伴奏は初めてという方は、いささか緊張気味でした。

また、例年では、各々の流派が別々の構成吟を発表していましたが、今年度は、流派の垣根を越えて、一つの特別企画番組「温故知新」を発表しました。

脈々と流れる歴史の中でも、幕末維新の頃から激動の昭和までの故きを温ねました。歴史の一こまに生きている私たち。新たな問題と未来を考える機会になればとの思いを込めて企画構成しました。

漢詩・和歌・俳句・現代詩の朗

詠に合わせて剣舞や詩舞。戦中の唱歌を歌ったり、会員の特技を生かした書道や太極拳を披露したりしました。

祭典終了後、場所を変えての記念パーティーを開き、会員相互の親交を深め合うと共に、連盟のさらなる発展を祈念いたしました。



# 市民芸術文化祭を終えて

趣味教養部門

加藤 誠

(三重県かるた協会桑名若菜会)

昨年十月三十日(日)、六華苑一の間にて、第二十回桑名市民芸術文化祭行事として初心者かるた大会を開催しました。

この大会は、私たち会員が日頃練習している「競技かるた」ではなく、百人一首かるたを誰でも気軽に取ってもらえるようにと私たちが考案した、二人一組でチームを組み札を取りあう形式のもので

す。  
この形式でのかるた大会は、十年前から明和町で毎年開催してきたものですが、毎年たくさんの方に参加いただき熱戦が繰り広げられてきたことから、北勢地区でも広げたいと、今回の大会を企画しました。

最初はどれだけの方に集まってもらえるか、不安な気持ちもありましたが、蓋をあけてみると、出場者は三十四名、付き添いの方も含め、会場はあふれかえるような盛況でした。

年代でみると、園児から八十歳を超える高齢者まで、幅広い方々に参加いただき、親子・兄弟・友達同士とさまざまな形でチームを

組んで、勝負を競っていただきました。

大会は、札を一枚取る度に大きな歓声(悲鳴?)が起き、楽しく、かつ真剣な勝負が繰り広げられました。閉会式では、大会参加の記念にと出場者全員に表彰状をお渡しし、お帰りいただきました。午前中の三時間の大会でしたが、それなりに皆さんに楽しんでいただけたように感じました。

今年度からは小学校の教科書に百人一首が取り上げられるようになり、またアニメで百人一首かるた競技を題材にした作品がベストセラーとなるなど、私たちには追い風が吹いているこの時期にこそ、来年以降も継続開催していけるように、更に趣向をこらすなど、努力していきたいと考えています。引き続き皆様のご支援をよろしくお願いいたします。



# 美術部門 合同展を終えて

美術部門

松井 勝

(精義孔版画アートの会)

美術部門展は11月17、20日の3日間、メディアライヴ多目的ホールで開催されました。

美術部門展のよいところは、桑名市のアートの文化人がジャンルを超えて交流があり、お互い切磋琢磨しながら新しい制作技法や、テーマの表現方法の向上に結び付けられることです。思うに作品から受けるイメージから感化されたり、刺激や閃きがあつたりするのは合同展の所以でしょうか。

それに、なにしろプロ・アマ一堂に会しての展示によって鑑賞できるところに、意義があります。オリジナリティとか、新しいテーマの取り組みや技法で、皆様の向上心がよく分かり、鑑賞に耐える作品が多く集まっていました。このことは提供する側の責任でもあります。

残念なのは会場スペースの関係で各グループ多くの作品点数が、制限されることでした。また、当日渡されるパンフレットには各グループの特徴がコメントされていれば見る楽しみも倍加するでしょう。

私的な感想ですが、美術展は多目的ホールではなく、常設の展示館があれば、初めてゆっくりと落ち着いた雰囲気での鑑賞できるように思いました。

作品出展者118名、入場者906名でした。

出展者、グループ名を添えます。

- 【絵画】 個人4人。ぐるうぶ雑創4人。青黄会5人。桑名美術クラブ6人。桑洋会4人。アトリエ創5人。留美寝参寿久波奈5人。桑名国際美術交流会5人。亀遊会1人。サンファール水彩画教室3人。
- 【書道】 個人2人。ぐるうぶ雑創5人。雄岳書院2人。清隆書道会1人。好古書道会4人。
- 【写真】 全日本写真連盟桑名支部10人。全日本写真連盟はまぐり支部8人。
- 【彫型画】 個人1人。ぐるうぶ雑創2人。彫型画桑名愛好会6人。
- 【ちぎり絵】 ちぎり絵サークル6人。
- 【陶芸】 個人会員4人。宍石陶遊会10人。桑名萬古焼陶芸協会2人。
- 【染織】 藍華の会4人。
- 【漆工芸】 個人1人。
- 【孔版画】 個人1人。
- 【銅鍛金】 個人1人。
- 【彫刻】 個人1人。彫創会5人。



# 新春懇親会

副会長

今村和子



恒例の新春懇親会が1月14日、桑名シティホテルで開催されました。来賓の方々も多くご参加いただき楽しい懇親会になりました。23年度の桑名市の文化功労者として、会員で日本画家の水谷桑丘氏が受賞されたことを披露し、ご挨拶の言葉を戴きました。一昨年も会員の中から受賞者が出て我協会は、桑名市の文化向上の一翼を担っていると頼もしく思っております。

会員によるアトラクションも今年は少なく感じましたが、皆さんでカラオケを楽しむことが出来ました。色々な分野で活躍中の方々とお目にかかれて、友好関係を結ぶことが出来るというのも文化協会ならではの事だと思えます。年の初めにあたり、懇親会で楽しいときをすごし、自己の活動のみにこだわらず、また一年の文化活動を広い視野を持って続けていけること、その環境にあることに感謝しながらお開きとなりました。

## 文化・芸術は桑名から

美術部門

水谷 桑丘

(桑名国際美術交流会)

この度は桑名市文化功労者賞を頂き有難うございました。突然の事で驚いています。日本画を始めから四十五年になりました。

新美術協会に属し桑名市民展運営委員や桑名市文化協会の創立に携わり公民館の日本画講師として務めさせて頂きました。

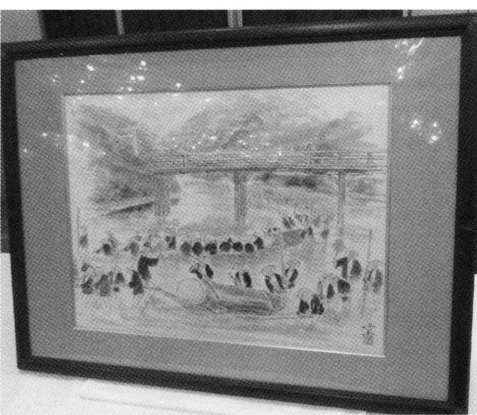
今回の受賞に際し改めて、これまで自分は何をしてきたのか何が出来るのかという自問に実はとまどっています。確かに若かりし時には燃えていましたし芸術家になるんだと意気込んでいた時代がありました。しかし年のせい、すっかりその気が失せており一種の失望感すら感じています。一体どうしてなのかわかりませんが、私の実感として、この四十五年の間に、市の文化に対する体制が変化もなくくり返しにすぎず、何も前へ進んでいないという印象を否定出来ないようです。

我々制作者はまず発表の場所があり多くの人に鑑賞して頂く事に意義を持ち感動や喜びを見出す訳で、そこから文化・芸術を発進出来るかと確信しているのです。言わせて貰えば市民展が分離して展示発表されている現実を嘆いている人は私一人ではないと思います。

私は桑名国際美術交流会会員として韓国の馬山市と交流をしています。韓国の作家は精力的に世界へとグローバルな活躍をされており我々会員もかなり刺激を受けています。今後はこの様に桑名にとどまらずアジアという大きな世界に向かって桑名から発進すべく糸口を見つけて事が課題ではないかと思っております。

高齢化社会の今、これからの桑名市を担っていく若い方々に希望を与え活力を生み、桑名を元気にしていただく次の時代へのかけ橋を我々が残していく責任があるようです。

来る四月二十一日～五月二十日の期間、桑名市博物館での桑名市文化功労者表彰記念企画展が開催されます。市の文化課や関係者の方がどんな企画でアピールし発進されるのか、今からその手腕を期待し楽しみにしています。



# 平成二十四年度月釜・華道展日程表

とき 午前十時～午後三時半  
 ところ 〔月釜〕六華苑 離れ屋 〔華道展〕番蔵棟  
 前売券 七百元（入苑料込） 当日券 五百円（入苑料別）

四月十四日(土)は、県民の日のため  
 入苑料は無料となります。

開催日	茶道担当流派	華道担当流派
平成二十四年 四月十四日(土) 十五日(日)	(十四日のみ) 遠州流	MOA山月光輪花
五月二十日(日)	松尾流	竹真流
六月十七日(日)	煎茶松風流	石田流 いけ花池坊
九月十六日(日)	裏千家	小原流
十月二十一日(日)	表千家流	草月流
平成二十五年 一月二十日(日)	遠州流	休会
二月十七日(日)	裏千家	華道家元池坊
三月十七日(日)	表千家流	未生流中山文甫会

## 桑名市文化協会育成補助金

### 募集のお知らせ

桑名市文化協会では、桑名市の芸術文化振興のため、文化協会会員が企画して行う事業に対して補助金を交付します。つきましては平成24年度の育成補助金募集案内をいたします。

◎ 応募受付期間

平成24年3月5日(月)～  
4月6日(金)

(平成24年4月1日～平成25年3月31日までの実施事業に限る)

◎ 申請の制限

平成22年度・23年度に補助金助成を受けた団体・会員は交付申請できない。

◎ お問い合わせ

桑名市文化協会事務局  
 (桑名市教育委員会 文化課内)  
 TEL 0594-24-1361

◎ 応募の方法

文化協会事務局(教育委員会文化課内)で申請書類を受け取り、同事務局へ申請する。(文化協会のホームページからもダウンロードできます)

◎ 補助金の額

事業企画実施に要する交付対象経費の80%以内の額で30万円を限度とする。

◎ 補助対象団体等  
 文化協会の個人及び団体。ただし、平成24年4月1日をもって、桑名市文化協会に在籍一年以上の会員。



# 文協文芸

## 川柳

くわな川柳会

梶 泰栄

男なら覗いてみたい試着室  
賽銭の額を超えてる願いごと

川瀬 秋廣

ケイタイに使わぬ装置一つある  
欲の皮だけは丈夫で破れない

清水 健吾

黙ってる妻そのうちに噴火する  
貧しいが心豊かに生きる明日

真田 五市

お早ようへおはよう返す通学路  
墓まいり隣りの墓石苔を見せ

水谷 真

原発の不安他国で学ばされ  
小船でも帰ってほしい拉致家族

森 繁生

左遷地でつづる日記は雨ばかり  
晩学の弁当開くのもふたり

木原 広志

まだ使う顔だ少しは金をかけ  
寝るだけの顔へ女は何か塗り

## 多度グループ

石川 弘明

賽銭が背中へ当たる初詣で  
厄年に吉を念じて継る神

菅原 節子

古希迎え若さを誇る肌の艶  
吉報を待ち受験生落ち着かず

伊藤 章子

おみくじて大吉をひき夢抱く  
南天を美しく見る雪の中

草薙 尚子

今年こそ笑顔で吉を呼んでやる  
洗顔の目に清々しボタン雪

川畑 義之

吉兆の御節を本でめでている  
無礼講そのひと目で目が変わり

栗原 俊子

初詣で疑う神の記憶力  
白い息吐いて始発を待つホーム

水谷 陽子

孫の前お年玉には見栄をばり  
義援金一円玉を園児入れ

## 「笑いを取り戻したい」

短詩型文学の中で唯一、笑いを

もつのが川柳である。ところが川  
柳から最近笑いが消えた。そこへ  
サラ川が登場して座を奪った。

笑いのない川柳は、塩気のない

漬物と同じである、とは神田忙人  
師の言葉だ。笑いのある句はむつ

かしいが、私は昔のように川柳へ  
笑いを取り戻したい。

(木原 広志)

## 雨の音

現代詩 やまぶき

堀川 孝子

婚約指輪をはめた娘を見ていて母  
が言った

指輪をお風呂に忘れてきました  
細くなった指から

指輪の後が消えて久しい今  
父との思い出が疼いたのだ

お手洗いはどこでしょう  
長年住みなれた家の中で

手元から零れていくものがあり  
降り止まない雨に

足跡が消えていく

雲が崩れていく時

どんな音がするのだろう

私がおろおろすれば母もおろおろ  
抱きとめればあどけない笑顔

幼かった日

傘をさしかけてくれた母の手に  
光っていた物は

色褪せたりはしないのだが

濡れたベッドで目覚めた母は

あなたは だれ

あなたは だれ

古里の庭に雨だれの音がして  
私は部屋いっぱい傘を広げた

## 願い

現代詩 やまぶき

岡本 妙子

額縁におさまった人の前で  
首を左右に振りながら

つかみよのないものを  
追いかけている人がいる

広い家の中のひとりぼっちは  
知らない町の夕暮れに似て心細い

逝った人の残り香が消えるまで  
役に立てることは…何も無い

「趣味の手芸も花作りもやる気が  
しない」と唇をふるわせた

人を送った後は

暗闇の中でひび割れた硝子の上を  
歩くようなものだったから

何の力にもなれない

早咲きの梅の似合う人だけど  
思いきって

真つ赤なバラでも買って

若者の眉のような棘に

触れさせてあげようと思った

今はきつと

目の前が霞んでしまっているに違  
いない

棘の痛み

目が覚めてくれたら良い

# 桑名文協の仲間として

松井久雄

桑名文協の会員として歌を詠んでいこうと思います。「信綱顕彰会」「心の花」に参加しています。

★街すべてなぎ倒しゆく大津波

家も自動車も一瞬の間に

★襲われし伊勢湾台風生きのびし

われはじめての津波の恐怖

★庭に咲くチューリップという吾

にして眺めいるのみ東北の惨

★そなえいる耐火金庫のそれはな

に十四メートルの津波の前に

★被災地の夜の寒さを偲びつつ

電気毛布に包まれて われは

★陽は今日も何変わるなく被災地

の瓦礫の人々照らしいるのか

★段ボールで仕切られている体育

館はや三ヶ月避難所の人

★一時は一四〇〇人の体育館ま

ずはいのちを認め合ひしか

★気仙沼十八鳴浜くぐりしまと 九九鳴き

浜 津波に耐えし響く鳴き砂

★セシウムの一キロあたり50万ベ

クレルとやら藁に潜める

★液状化世界最大 女川おながわの鉄筋ビ

ルは横転という

★バイオマス発電の燃料にがれき

との取り組みもあり陽は昇りゆ

く

## 短歌

一楓・山城顕彰短歌  
小・中学生作品

金雀枝短歌社  
えしだ

高橋フクミ

曲がり角気になるあの子とぶつ  
つたこのドキドキはもうとまらな  
い 在良 佐藤 虹帆  
自転車で汗かきながら坂上がる遠  
い景色をかげろうゆらす

在良 百瀬耕太郎  
きれいだなむらさき色にさいてい  
る一年生のあさがおたちが

修徳 佐次田もも  
夏祭りかみがた変えてゆかた着て  
いつもとちがうわたしの笑顔

泉 響夏  
でかいんだこのトマトはなびつく  
りだ食べられるかなさあまるかじ  
り 大山田北 中村 亮太

カナヘビがたまごを産んだ知らぬ  
まにいつ顔だすか楽しみ七つ

星見ヶ丘 森 大誠  
せんぼうきいつもぐるぐる見てい  
るよケンカしてる子笑っている子

深谷 水野 真帆  
父さんにおんぶしてもらい気づい  
たよとても温かとても優しい

桑部 山本 友市  
空を見てハァーと息をはいた時自  
分の気持ち空に届いた  
修徳 水谷 慧美

目を開けて向こうのかべをにらみ  
つけさあスタートだ二十五メート  
ル 大山田東 福田 駿  
真つ白なケータイ画面ながめては  
君に伝える言葉をさぐる

光陵 春田賢次朗  
鍵盤をダンサーのごとく駆け踊る  
羽生えた指テレビの向こう

陵成 中久木みなみ  
ありがとうゆずった席におぼあち  
ゃんあめだま一つ交わすほほえみ

津田学園 辻 香音  
夏祭り出したてのひらポケットへ  
縮めたいのに君との距離を

光風 日比野紗久  
あつ、虹だ今日で二回も虹を見た  
登り坂をかけあがりながら

津田学園 花井 美咲  
宙返り回る瞬間不思議とねいつも  
と違う世界が見える

正和 西川 杏奈  
練習の成果をためすさあ跳ぶぞ夏  
空の下並ぶハードル

陽和 佐藤穂奈実  
あと少しあと少しだとはげまされ  
やつと登った富士の頂

光陵 川瀬 遥  
「合わせよう」その一言でのぞか  
せる友の白い歯かまえる楽器

明正 南川 佳菜  
木金は父が作った夜ご飯意外にお  
いしいにつこり笑顔

長島 伊藤 佑衣

金雀枝会員

保育所の見らの帰りし静けさを霜  
月朔日大き夕やけ 上原巳喜子

彩りのすくなくなりし庭隅の石路  
にさす午後陽やはし 岩花キミ代

牛肉を砂糖と醤油のみに焼く魯山  
人風母の味なる 加藤よしみ

干し終えて大きく伸びする一竿に  
事たる今のくらしも良けれ 水谷 郁子

九十三に初めて冬の帽子被り母は  
幾度も鏡にうつす 西羽加代子

あたたかき秋陽をうけて海棠の秀  
つ枝にひらく花の三つ四つ 高橋 典子

蹲居に一ひら浮ぶもみじ葉は寛の  
旋律合わせたゆたう 上田 順子

汽車内の扇風機はいま銀色の繭に  
つつまれ翅を育む 斎田 眞希

黄昏に煌めく二つの星ありて他愛  
なきこと二人し語る 後藤 明美

やはらかき白菜の苗土深くたんね  
んに植う明日は雨とふ 近藤 光子

# 桑名地名あれこれ⑥

## 新町の「新」ということ

社会文化部門  
大河内 浩  
(個人会員)

桑名市街の南方、旧東海道沿いに新町というところがあります。市販の地名辞典では、桑名城下の町割りに際して新しくできた町と説明がありますが、それならほとんど全ての町がそうなります。

桑名の町では江戸時代初期から年間の行事の運営などで、南北の年番制が設けられ、それぞれ北市場・南市場と分称されました。新町は、南市場の中心として、その中ほどに新しく作られた町「中新町」と名づけられ、泡洲崎八幡神社が祀られました。その後いつ頃新町と変わったか定かではありませんが、文政六年(一八二三)の絵図には古名中新町とあります。



往年、桑名城下町割りが行われる以前の3洲(自擬洲崎・烏洲崎・泡洲崎)の名を留める泡洲崎八幡神社、石取祭で有名な本町春日神社の境外末社にあたります。



現在、桑名市博物館の前にある道標「右ふなばみち、左京いせみち」は、この泡洲崎八幡神社の前にあつたものが移設されました。

また、新町地内には寺院が幾つかありますが、光徳寺境内にあつた進善学校は、矢田町にあつた日新学校と統合して、日進学校(後の桑名第一小学校、現在の日進小学校)となりました。

光明寺は正応三年(一二九〇)石取祭で有名な春日神社の氏寺となり、江戸時代には南市場の祭寺とされましたが、明治元年(一八六八)に神祇事務局の達しでこの制度は廃されました。しかし新町が桑名市街南部の中心町内であるという誇りは変わらず、石取祭車万灯に「南市場」と掲げられます。

## 平成23年度新入会員

○毛利 勲  
個人会員(銅鍛金)

○好古書道会

代表 片岡 清貞(書道)

○亀遊会

代表 伊藤 亀太郎

(日本画・水彩画・水墨画)

○桑栄編物教室

代表 岡本 早百合(編物)

○サンフアール・水彩画教室

代表 堤 三恵子(水彩画)

○榎本 吉高

個人会員(ドラム)

○Piano study

代表 水谷 直美(ピアノ)

○精義孔版画アートの会

代表 松井 勝(孔版画)

## 第20回総会のご案内

日時 平成24年5月13日(日)

午前10時から

(受付は午前9時30分から)

会場 桑名市大山田コミュニティ

プラザ 中会議室

※各部門から代議員の選出をしていただきます。詳しくは、各部門の理事から連絡します。

## 編集後記

今年度も市民芸術文化祭、新春六華苑祭ともに、盛況のうち開幕いたしました。ご出演・ご出品の皆様、お疲れ様でした。ご来場いただいた皆様、ありがとうございました。

あの未曾有の大震災から、一年になります。会員のみならず中には、いちはやく復興支援のためチャリティー活動に動かれた方々があり、また、表現の力で人々を元気づけようと作品に向かわれた方々がありました。「被災地で瓦礫を片付けることと、この作品を作ることは同じ。」ある会員の方のお言葉です。多くのみなさまが「命」「絆」を意識され、文化活動に取り組まれた一年ではなかったかと思えます。

これからも、人の心をなごませる、人を元気づける、そういった文化芸術活動を発信できる桑名でありたいと、願ってやみません。(相原千景)

### 広報担当副会長 委員

文学部門	中山 雅幸
美術部門	高橋フクミ
音楽部門	松井 勝
芸能I部門	菅原 真治
芸能II部門	渡邊 法子
芸能III部門	尾崎三千男
演劇部門	加藤 清子
社会文化部門	相原 千景
茶華香道部門	大河内 浩
趣味教養部門	三浦 幸子
	加藤 誠